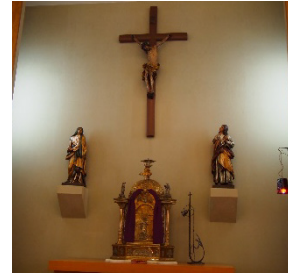


# よきおとずれ

カトリック釧路教会だより

第17号 2020年4月12日（ご復活の主日）発行



## メイビー・トゥモロー（きっと あしたは）

洗礼者ヨハネ 内藤 孝文 神父

主の復活おめでとうございます。復活のお恵みが皆さんにありますように。

神学生時代に聞いて心に残っている説教があります。「主の受難があって主の復活がある。忘れるな！」・・・喜びは苦しみを前提とするという意味なのでしょうか？

そんなことを考えていると、いつも自然と心の中に浮かんで来る歌詞があります。1980年代に活躍していた“レベッカ”というバンドの「メイビー・トゥモロー (Maybe Tomorrow)」という曲です。

神学生時代、「ブラウン・ブラザーズ（茶色の兄弟達）」というバンドがあり、私はドラムを担当していました。ちゃんとしたバンド名があるのに、周囲からは「チンドン・バンド」と呼ばれていましたが、私達メンバーは、いたって真面目で真剣そのものでした。トランペット、クラリネット、サクソ、ギター、ベース、キーボード、ドラムなどの楽器を駆使して、クリスマスや復活祭などにその腕(?)を(押しかけ)披露していました。

演奏は毎回「翼の折れたエンジェル」という曲で始まり、この「Maybe Tomorrow」という曲で最後を締めていました。歌なしの演奏ですが、それぞれのメンバーは心の中で歌

詞を歌いながら演奏していました。その方がテンポを合わせやすいからです。

“疲れ果てた体よこたえ 目を閉じて 今日  
を思いかえす

汗にまみれて ただがむしゃらで 夢は  
また遠い1日だった

だけど明日は きっと いいこと ある  
と信じてたいの Maybe Tomorrow

夜にすいこまれ 心がさむくなる 子供  
の頃を想いだすよ

ひとりぼっちで歩きはじめたから もう  
ふり返ることは出来ないね

灰色の日に行きづまっても あきらめは  
出来ないの Maybe Tomorrow

だけど明日は きっと いいこと ある  
と信じてたいの Maybe Tomorrow”

福音書が伝えるイエスの姿は、きっとこの  
ような思いの毎日だったと、この曲の歌詞を  
思いだすたびに思うのです。

“だけど明日は きっと いいこと ある  
と信じてたいの Maybe Tomorrow”

これも、主の復活にあずかる、生きるという  
ことではないのでしょうか。

Maybe Tomorrow・・・きっとあしたは・・・



## “ ゆっくりと 心を込めて ”

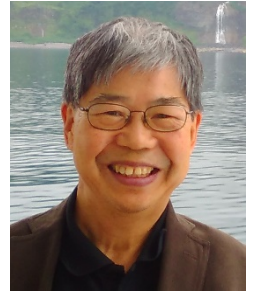
クレト 中村 道生 神父

2014年に、大阪生野教会から、釧路の修道院に派遣されてから、この4月で、まる6年になります。司祭に叙階されて最初に派遣されたのは札幌でした。2年後、旭川の地区長だったローター師が帰国休暇された時、留守番で6ヶ月間、旭川5条教会にいましたので、今回の旭川への転勤は初めてのことでないですが、約40年ぶりで、歳も、もうすぐ80才ですから、**“ ゆっくりと 心を込めて 主を仰ぎ ”**最後の務めを果たせればと願っています。

内地での40年間は、福岡、北浦和、大阪と、大都市の住宅が密集し、ごみごみしたところでしたから、釧路に来たときは大喜びでした。土日にかけて根室まで123kmを往復し、根釧原野をドライブできるので。黒金教会の聖堂はイタリア風ですが、すごく立派で私は好きでした。協力司祭として4つの教会を巡回することで、信徒の皆さんとの関わりはあまりできませんでした。週日の勉強会では聖パウロの手紙を分かち合い、親しくしていただきました。また、平和旬間の時には、脱原発問題の講演会に聖公会信徒のお話を聞いたり、市民の方たちと釧路駅前と一緒に「憲法9条」を守ろうと叫んだことも懐かしく思い出します。

でもいちばん有難かったことは、アントニオ修道院で兄弟の皆さんと祈りや食

事を一緒にできたことです。食堂の柱に、**「いつも喜んでいなさい、絶えず祈りなさい、どんなことにも感謝しなさい」**というみ言葉が掲げて



ありますが、ラザロ神父さんの笑顔と祈りは忘れません。兄弟たちのお祝いの時など、ほんとに楽しい時でした。何か必要のものがある時は、いつも渡辺神父さんの所に借りに行くと「はい、いいよ」と言って大概ただでくれました。釧路に来た頃は、雪景色が珍しく子供のように喜んでいました。6年もたつと、「アーマた降ってきた」とつぶやいていますが、どんなことにも感謝するのは難しいですね。あの頃の院長さんも芝刈り、雪かきなどよく働いておられました。私もまだ元気だったので、文字どおり遊び半分の手伝っていました。

実は今回の転任で、もっと寒い旭川と聞いたときは内心えーっと思いましたが、聖パウロは、「どんなことにも感謝しなさい」と書いた後、「これこそ神があなた方に望んでおられることです」と言っています。あらためて、皆さんに感謝し、神様の祝福が何時もありますようにお祈りいたします。

## 良き出会いに感謝

アグネス 小林 和子

昭和 55 (1980) 年 4 月、洗礼のお恵みを受けてから今日まで、その時々のことを思い返してみました。

最初に神様を求めたのは姉でした。その影響で母が教会に行くこととなり、私はミサが何なのか分からないままに日曜日教会で過ごすようになりました。息子と娘が聖母幼稚園に通うようになり、いつもやさしく接してくださる神父様やシスター達に出会い、周囲の人との交わりは穏やかで貴重なものでした。それから一年くらいの準備をし、神様のお招きに入ることが出来ました。子育てや両親の介護の日々、神様からいただく力は私の助けとなりました。

ある日の神父様のお説教は今でも忘れることはありません。ある園児さんが園長先生に聞きました。「どうすれば、十字架からイエス様が降りることが出来ますか」という問いでした。神父様はとても困ったと思いますが、「世界が平和になった時です」と答えました。この二人の場面は四旬節、ご復活の頃、私の心に浮かびます。いつも一緒にいて下さる神様に問いかけながら、これからも過ごして行きたいと思います。



## 新川集会所の今後について

### 新川集会所検討委員会

去る 1 月 26 日、御ミサ後に新川集会所の今後について 2 回目の「信徒の話し合い」が行われ、新川集会所を解体することの了承が得られました。

初回の「信徒の話し合い」では意見が少なく、検討委員会を設けて話し合いをすることになりました。その後、行った 2 回目の委員会で解体の方向で意見がまとまり 2 回目の「信徒の話し合い」に提案し、様々な意見をいただいた後、解体の可否の採決を行ったものです。

新川教会は昭和 33 (1958) 年に釧路教会より分かれ、約 30 名の信徒でスタートしました。その 10 年後、昭和 43 (1968) 年に現在の教会が献堂され 52 年を迎えようとしています。

平成 23 (2011) 年 10 月に釧路教会との統合に向けて最後の御ミサを行いました。その後、名称が新川集会所となり、有効活用すべく冬期間を除き、当初は勉強会も現在は月一度の御ミサを数人の参加で行ってきました。

最盛期の頃は侍者をする子供たちも多く活気にあふれ、信徒も増え、御聖堂がびっしりになるほどの御ミサでした。お世話になった歴代の神父様、やさしかったシスターの皆様、地下室で行うパーティに車椅子ごと抱えて参加させた若かったお父さんたち。洗礼式や結婚式があれば送別会や葬儀もありと、楽しかったことや悲しかったこと等、沢山の教会での思い出に枚挙のいとまがありません。

しかし、老朽化も著しく、いつかは解体しなければならぬのであれば、光熱水費や火災保険料等の維持費は毎年確実にかかっていくため、早期に解体を決心してはどうか、との話が出てきて、信徒間で話し合

いを行うことになったものです。

決定までに紆余曲折があったのは何といっても財源の問題です。新川教会時代の残っている資金が解体、整地できるほど潤沢にあれば問題ありませんが、費用の半分にも及びません。また、整地後の売却もどのようになるか等、全く未知数のことばかりです。



レイナルド神父様によるフィリピン人信者のためのミサ (1月19日)



### 編集後記

主のご復活おめでとうございます。

今年は新型コロナウイルスの影響で世界中が非常事態に見舞われ、教会でも四旬節に入っすぐに公開ミサが中止となりました。

このような中、ご自宅で不安や寂しさを感じながら、お祈りしている信者さんもたくさんいらっしゃるのではないのでしょうか？しばらくお会いしていない方々の顔が浮かびます。

電話、手紙、FAX、SNSなどを使って、皆さんにどうか“Maybe Tomorrow”をお届けできないかと思う毎日です。(N.M)

これからの資金繰りをどのようにするかは今後、委員会等で検討し、再度皆様方にお諮りして進めていくこととなります。

その間、この事業が円滑に進むよう、ご提案があれば頂き、また、お祈りや更なる献金等、諸々お願いしたいと思いますのでどうぞよろしく願いいたします。

キリストの復活は私たちのもっとも偉大な確かさです。もっとも貴い宝です！このような宝、このような確信を人々と分かち合わずにいられるでしょうか？自分のためだけに与えられたものではありません。人びとに伝え、与え、分かち合うためです。それこそがわたしたちの証しです。

『教皇フランシスコのことば 365』より

カトリック釧路教会 <https://kushiro-catholic.cloud-line.com/>

〒085-0018 釧路市黒金町 12 丁目 10

TEL 0154-22-5823 FAX 0154-22-5832

教会だより 編集：広報委員会